

らいつ通信

らいつ

lifsea
株式会社リフシア
ホームページ
http://lifsea.co.jp
ぶちらいつ編集室ブログ
http://lifsea.jugem.jp
らいつ日記(スタッフブログ)
green.ap.teacup.com/lifkaigo
2010春 Vol.19

グループホームや小規模多機能型居宅介護は、介護保険法で運営推進会議の設置が義務付けられています。2〜3ヶ月に1回定期的に利用者の家族、地域住民の代表(町内会役員・民生委員・老人クラブ代表など)、市町村や地域包括支援センターの職員など外部の人に来てもらい、その運営状況を話し合います。



炭坑節ならお手の物

最初に野間所長がらいつ神明の運営状況を報告しました。最近あった緊急対応や、重度化した方に対する介護食の取り組みなど、具体的な内容



皆さんの生活の場に入って交流を深めます

を地域の方に知っていたり、暮している人達のことを理解してもらいます。立ち上がりが多く転倒事故のリスクの高い人で、家族と相談し車椅子の使用安全ベルトを使用しているケースについて『落ち着いて過ごせる状況はどのような時かを

アシメントとして身体拘束を予防していききたい』という野間所長の報告に、『一人だけに係わっているわけじゃないから大変でしょうが、いい取り組みですね』といった意見や、老人会の方から『うちでも主人の介護で目が離せず、デイサービスやショートステイを使っているけれど、こういう施設がないと家族だけでは頑張れない』といっ



踊りの会の催しに参加する地域の皆さん

た意見も出ました。自治会の方から、『避難訓練の時に広域避難所までいける人が出て、とりあえず近くの公園に避難した。元気なもののばかりじゃないし、この利用者も広域避難所までは無理だと思う。災害時についても地域で話し合ったほうがいいね』という提案をいただきました。らいつ神明は介護の必要な認知症の人が多く生活していることを地域の方に知っていただく大切さを感じました。

特集 地域密着型サービスをみる



先月起きた札幌のグループホーム火災で、『あそこがグループホームだと知らなかった』という近隣の方が沢山いました。皆さんは自分の暮している地域にどのような介護施設があるか知っていますか? 編集部は2月27日、らいつ神明で開かれた運営推進会議に参加し、事業所と地域の皆さんの関わりを取材しました。

地域の皆様と一緒に介護を考え、関わりを大切にしていくなのが運営推進会議です。



郷

らいつ歳時記 event

お寿司を食べにいきました



→子供の頃を思い出しながら、つくしの袴とり



←今流行の銭形平次ゲーム、狙いをさだめて〜遊びは形から入ります

↓柳島が誇る美女二人、お庭で日向ぼっこ中



ガーデニングに回転ずし、節分には鬼も登場、らいつの暮らしあれこれ。

神明



節分には鬼ですが、力が入りすぎたかも知れません

松林



このポットは3段重ねることが出来ます

萩園



3月5日中島中学校の3年生が9人ボランティアに来てくれました

萩園名物の鬼も登場。豆撒きで無病息災を祈願しました

lifsea
株式会社リフシア

編集後記



LIFSEA 検索

検索は「リフシア」でもできます。「ぶちらいつ」のバックナンバーもすべてこちらでご覧になれます。

ぶちらいつ編集室 検索

紙面ではお伝えできなかった介護や福祉の情報、編集部のお思いなどをタイムリーにアップしていますので、時々チェックしてみてくださいね。

3月1日に法人が分社化し、株式会社リフシアとして新しいスタートを切りました。社名は『LIFE(生命)』とその根源といわれる『SEA(海)』を合わせた言葉として生まれました。『命・人生・暮らしを海のような大きな包容力で優しく包み込んでいく』という思いが込められています。ホームページも新しく作り直し、各事業所の様子を紹介する『らいつ日記』の他に、私たち編集部のブログもアップしました。どうぞ皆さんご覧下さい! 次回夏号は8月に発行予定です。ご意見ご感想、投稿をお待ちしています。(み)

らいつ通信「ぶちらいつ」秋号 Vol.19
2010年4月15日(季刊発行)
編集/ぶちらいつ編集室
〒253-0071 神奈川県茅ヶ崎市萩園 2822-1
TEL0467-55-5102 FAX0467-55-5103
発行/株式会社リフシア

【特集記事】身近な素材を工夫して食を楽しむ 在宅に介護食の輪を広げよう



らいつ萩園の昼食風景

箸を持った手が伸び、
食事を口に運ぶ楽しさを
意識したことがありますか？
おいしそうに見えないと
食べる意欲が引き出せません。

自宅ですべてでも見てあげた
い、入所待ちしながら何とか
介護しているというご家庭が
非常に多い昨今、在宅介護は
重度化しています。らいつを
利用している方々も生活全般
に介護が必要な人が増え、中
でも食事が大きなテーマに
なっています。

減り、
食べる人
の生活も豊
かになるのではないかと、ら
いふ萩園の厨房を使って、簡
単レシピ作りのお手伝いや勉
強会を、近辺の介護従事者と
行なっています。



温かいお茶をゲル化剤
でかき混ぜる・シェイク
・ミキサーと手法を
変えて比較考察



おやつホットケーキを
ミキサーにかけた場合

難しく考えない
で身近な素材を
介護食に取り入
れられたら、在
宅介護の負担も



食事を楽しむらいつ柳島
のお客様

らいつ萩園の厨房スタッフも
レシピ作りに参加しながら意
見交換



素材の味を生かして出
来上がりを楽しむ→
写真左上 生トマト
右上 粥
左下 パン粥
右下 パイナップル



ゲル化剤で茹でほう
れん草など素材をミ
キサーにかけ、冷蔵
保存すれば在宅介護
に生かせる



ゲル化したお湯を
つくり、粥に混ぜ
れば硬さが調整で
きる



湘南つれづれ④ 湘南サウンド

巷に流れるサザンの歌や加山雄三の歌は俗に湘南サウンドといつて、多くの人々に愛されています。エレキの音に加えて、どこか懐かしい、優しい、のんびりした、癒しの音色が湘南サウンドだといふ人もいます。

60歳代後半の私にとつては、加山雄三の「君といつまでも」やワイルド・ワングスの「思い出の渚」であり、もう少し若い人にはサザンの「勝手にシンドバット」や「いのちのエリー」でしょう。

彼らのような茅ヶ崎育ちのミュージシャンが出る前を少しさしどってみましょう。

終戦直後、米軍のキャンプが旧南湖院（現老人ホーム）にありました。ここは別世界で毎夜、ジャズの演奏がありました。直接、関係

はないのですが、これが新しいミュージシャンが生まれ、集まる土壌になったのかもしれない。昭和の初めには、山田耕筰が南湖に住み「赤とんぼ」「叱られて」などの童謡の名曲を作曲しました。跡地には歌謡生のかげが建てられ、「赤とんぼ」は夕方のチャイムにもなっていました。

戦後は、歌謡界では平尾昌晃、中村八大、永六輔、鈴木邦彦、喜多嶋修、「また逢う日まで」の尾崎



紀世彦、ワイルドワングスの加瀬邦彦など、ジャズ界からはギターの宇山恭平、ボールの石黒ケイ、ピアノのアキコ・グレースなど茅ヶ崎で生まれた人、任んだことがある人など、わが町にゆかりのある音楽関係者は大勢います。

南佳孝、オメガドライブの杉山清貴も、更に、兄弟デュオのブレッド&バターや白井貴子、ユーミン（松任谷由美）なども茅ヶ崎、藤沢、鎌倉などの湘南とはかわりが深く、彼らも湘南サウンドの担い手と云えます。

70年代には茅ヶ崎に今は伝説のカフェと呼ばれるライブハウスがあり、湘南ポップカルチャーの発信

基地でした。かつて、若大将といわれた加山雄三は古希を過ぎても活躍しております。

その後、1978年にサザンの桑田佳祐が「勝手にシンドバット」で鮮烈なデビューをしました。そして、その活動は皆さんの広く知るところです。2000年の野球場でのライブは今でも語り草になっています。残念ながら彼らは活動を中断し、お休み中です。それでも、彼の歌はサザンビーチ、サザン通りの名と共にいつでも我々の身近にあります。

歌は人の心を優しくしてくれます。二人のヒット曲をもじっていえば、『砂まじりの茅ヶ崎に住むわれわれは、いつも幸せだなあ』と叫びたくくなります。（井）



介護食でお寿司作り 2月12日（金）

介護食の勉強会が(株)宮源の提供により、有料老人ホームアンリ茅ヶ崎で行われ、らいつの各事業所スタッフも参加しました。

献立は高齢者に人気の『にぎり鮭』です。口腔や嚥下の状態で粥やミキサー食を食べている人には無理と思っていた献立ですが、ミキサーゲルを使って手軽にできました。レシピのご入用の方は編集部までお問い合わせください。



参加者がモデルになって
口腔ケアの方法を実践



「介護に求められる口から健康を考
える視点」をテー
マに、3月6日（土）
らいつ介護セミナーを
開催しました。講師は
茅ヶ崎市在住の黒岩恭
子先生（村田歯科院
長）ということもあ
り、管理栄養士や在宅
のホームヘルパー、ケ
アマネジャーなど様々
な職種の方（40人以
上）が、リフシアの研
修室に集まりました。

数日後、参加したヘルパー事業所の方から『自分たちの勉強会に取り入れたらいい資料が欲しい』という問い合わせをもらいました。『他職種が連携して地域に広めて欲しい』という黒岩先生の考えが、らいつの周辺でひろまりつつあります。

第3回らいつ介護セミナー報告 3月6日（土） いつまでもおいしく食べよう

黒岩恭子先生
村田歯科医院長



現場体験にもとづく口腔リハビリ、家族や地域との連携の活動など定評が高い



顔の上から手を当て骨の仕組みの説明を受ける参加者